ベルデ地域支援センターニュース

ベルデネット

発行　2023年10月12日　（第13号）

事務局／堺市立重症心身障害者（児）支援センター内
ベルデ地域支援センター
〒590-0808　堺市堺区旭ヶ丘中町４－３－１　堺市立健康福祉プラザ２階
電話 072-275-8510　FAX 072-243-5900

ベルデさかいからのごあいさつ

　2023年4月に前任の児玉和夫からセンター長を引き継ぎました。これからもベルデ地域支援センターは、これまでと同様、堺市内や近隣地域にお住いの重度心身障害児者とそのご家族の地域生活に必要な、地域における支援に関して真摯に取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。
　さて、2019年12月に中華人民共和国の武漢で始まった新型コロナウイルス感染症（Covid-19）の流行ですが、4年が経とうとする今も全世界レベルで収束する兆しはありません。しかし海外の国によっては何事もなかったかのような日常生活が戻ってきているところもあります。日本においても、5月にCovid-19が5類感染症に移行してからは、「世間」では徐々に流行前の生活が戻ってきたかのようになっています。ところが、高齢者施設や障害児者の施設では、Covid-19に対する医療体制が保たれるように対策が講じられ、クラスターが発生しないよう緊張感を高めざるをえない状態が続いています。
　ウイルスなど宿主に寄生して増殖する病原体は、流行が続く間に①感染力が強い（ごく少量の病原体がとりつくだけで感染が成立する）株、②増殖能力が高い株、③宿主を死亡させるほど強くはない株などが生き残り、徐々に変遷していくことが報告されています。新型コロナウイルスもその例にもれず、初期に流行したα株に比べて現在流行している株は、感染力は強いものの重症化率は低くなっています。
　ただし、コロナウイルスは気道粘膜で増殖しやすいウイルスですから、咳をする力が弱いなど呼吸器系に課題や基礎疾患がある高齢者や障害児者では楽観視できない状況が継続しています。症状がさほど強くない人から伝染したとしても、うつされた人がそういった呼吸器系の障害を持っていると、致死的な状態にならないとも限らないというのは非常に厄介です。高齢者や障害児者と接することが多い人は、なかなかコロナ禍前の日常を取り戻せないでいます。

　この3年余り、ご家族とのやり取りが電話や紙面上でだけとなり、顔と顔を突き合わせたやり取りができていないことで齟齬が生じてしまったというエピソードもあちらこちらで散見されているようです。なかなかコロナ禍前のような状況に戻せない中で、障害児者の地域での生活や人生を豊かにしていくため、皆様とともに考え、取り組み、情報を共有していくことが、ベルデ地域支援センターの使命であり、このネットの役割であると感じています。
　さらに、生活を支えるために医療の知識や技術が役に立つ場面もあり、医療も生活を豊かにするための一つのパーツです。今後は医療面での支援体制も充実させていく予定ですので、医療面も含めて忌憚のないご意見、疑問に感じていること、困っていることなどをどんどんお寄せください。お願いいたします。

堺市立重症心身障害者（児）支援センター
センター長　中谷　勝利

地域支援センターからのごあいさつ

　いつもベルデさかい地域支援センターの活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
　9月7日に開催した、第27回堺ミーティングで2019年度以降の地域支援センターの活動報告と、地域支援センターが果たすべき役割についてお話させていただく機会を設けました。いつも堺ミーティングの際にはお話ししたかった内容ですが、なかなかまとまった時間が取れないままになっていました。

その基本的な考え方、運営方針は以下の通りです。
① 「ベルデさかい」内に、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、看護師、相談支援専門員及び生活相談員などで構成する地域支援センターを設置する。
② 「ベルデさかい」の理念・指針に則り、堺市内に居住する重症者（児）とそのご家族の生活支援および、地域の生活介護事業所などの支援者との情報共有、協力体制整備を通して地域の医療・福祉サービスのネットワークを構築し、地域が必要とするニーズに応え、活動を通して市民に重症者（児）への理解を推進する。

　私たち地域支援センターの活動は、この運営方針に従って実施しています。堺ミーティングはじめ、様々な講演会や研修会の企画・運営・開催はもちろんですが、地域支援センターではずっと派遣事業にも力を注いできました。リハビリ関係の派遣事業では、地域の事業所へお伺いし、利用者さんの機能維持・向上に必要な様々な運動の指導・助言を、利用者さんご本人と、生活支援員をはじめとする支援者の方々にお伝えしています。決して個別のリハビリの提供・実施ではなく、日々の暮らしの中で、簡単でかつ楽しく取り組めるように工夫した内容をお伝えするように心がけています。
　現在では、定期的にリハビリ支援にお伺いする事業所も4ヶ所になりました。各事業所で様々なことに取り組んでおられますが、日々の日中活動の一環として個別の運動プログラムやリラクゼーションなどに取り組んでいく中で、生活支援員さんたちの指導スキルや、利用者さんのわずかな変化に対する「気づき」の能力が明らかに向上することに驚くと同時に非常にうれしく思います。「利用者さんの動きが良くなってきたと思うので、プログラムの内容をこんな風に変えてみたんですけど、どうですか？」といった言葉や、「動きが悪くなってきたのは、年齢のせいだけでなく、認知面の影響もありそうです」など、利用者さんの運動機能の変化がわかり、また運動だけでなく、もっと広い視点で評価できるようになってきています。そこには、支援の質の向上があります。
　このような取り組みは今後も継続していきたいと思います。リハビリに限らず、看護師や薬剤師など今後は医療面での支援体制も充実させていく予定ですので、遠慮なくご意見・ご要望をお寄せください。

ベルデネット13号をお届けします。

ベルデ地域支援センター
地域支援部長　小澤　明人

地域支援センターからのご報告・お知らせ

講習会や勉強会などの詳細は、ベルデさかいホームページに随時掲載します

堺ミーティングのご報告

第26回
「クリニック・訪問診療医の立場から見る、障害児(者)の地域生活の現状・課題・展望」

日時：2023年3月2日（木）19：00～20：45
会場：堺市立健康福祉プラザ　3階　大研修室（zoom配信あり）
講師：クレヨンキッズクリニック　関谷真一郎先生
　　（前　ベルデさかい診療部長）

　初めてのハイブリット式の堺ミーティングの開催となりました。医師・看護師・セラピスト・生活支援員・事業所管理者・教員・保育士・行政関係者・当事者家族など障害児者の多くのライフステージに関わる職種の参加があり、講演内容への関心の高さを感じました。また、広島県・和歌山県・兵庫県など遠方からの視聴参加もあり、オンラインの良さも感じました。
　講演内容は、関谷先生の職歴（小児科・NICU・重心施設・訪問診療）ごとに感じ、実践してこられたこと、医療的ケアを有する方々の推移と、法律・医療福祉制度に関すること、障害児者の地域生活の現状や、今後の生活に必要な地域の課題と他職種連携の必要性など非常に多岐にわたるお話と提言をいただきました。
　また、先生が訪問診療で関わっておられるご家族の「生の声」も伺うことができて、参加者の心に響く内容だったと思います。活発な質疑応答もあり、とても充実した内容の講演会でした。

第27回
「みんなでいろいろなことを話しましょう　其の壱」

日時：2023年9月7日（木）　18：30～20：30
会場：堺市立健康福祉プラザ　3階　大研修室（zoom配信あり）
内容：情報交換会　「みんなでたくさんいろいろなことを話しましょう　其の壱」
　　話題提供：生活介護ピースハ田西・ベルデさかい通所

　堺ミーティング開催後のアンケートに必ずある「情報交換・共有の場が欲しい」という声にお応えしたい思いから企画しました。重度心身障害者（児）にかかわる様々な領域の方々と、現場で起こっている色々な事象・問題・課題などについて、じっくりと情報交換と共有を行う場とすることを目標にしました。
　話題提供として、2ヶ所の事業所から「利用者の支援に役立つミニカンファレンス」「ご家族とのコミュニケーション対策」についてご報告をいただき、それぞれの話題に関してグループディスカッションを行い、情報交換と共有、発表を行いました。各施設とも、情報共有の方法に関しては工夫を凝らして行っており、活発な意見交換や情報交換がされていました。また、日々のご家族とのコミュニケーションに関しても、同じようなことで悩み、解決に向けて努力している様子が伝わってきました。コミュニケーションエラーはゼロにはできないまでも、やはり日々の細やかなコミュニケーションの積み重ねが重要であることも再確認しました。
　この企画は、今後も継続して行っていきたいと考えていますので、「うちも話題提供したい！」と思った施設の方は、ぜひともお知らせください。そして、ご参加の皆さんの沢山の知恵を出し合い、日々の問題の解決の糸口となるような、そんな時間を作りたいと思います。